

2020年卒
Vol.08

6月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年6月発行)

2020年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は7割を超える高水準をマークしたことがわかった。

1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は71.1%。5月時点(51.1%)より20.0ポイント上昇
- 前年同期実績(65.7%)を5.4ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の43.9%。前年(35.2%)を8.7ポイント上回る。継続者は56.1%

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。2位「建設・住宅・不動産」、3位「電子・電機」
- 内定企業の従業員規模は、1,000人以上の大手企業が6割(61.0%)を占める

3. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は28.5社。前年同期調査(30.0社)を下回る
- 企業セミナーへの参加社数は11.1社。前年(13.0社)より約2社少ない

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシートの提出社数は13.2社。前年(12.9社)をやや上回る
- 選考試験の平均受験社数は、筆記9.4社、面接7.1社。いずれも前年同期より微増

5. 就職活動継続学生の動向

- 内定を得ても就職先を決めていない理由「本命の企業がまだ選考中」53.5%
- 未内定者のうち7割(71.5%)が「内定の見通しが立っていない」
- 今後のエントリー予定社数は2.3社。新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」91.7%

6. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は82.5%。応募者の過半数(55.4%)が内定獲得
- 本選考への応募理由「優先ルートがあった」「早期選考だった」がそれぞれ前年より増加

7. 内定企業への意思決定に必要なフォロー

- 決定にあたり、「内定企業からのフォローが必要」88.7%
- 必要なフォローは「懇親会」「現場社員との面談」「社内や施設などの見学会」の順

調査概要

- 調査対象：2020年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,261人（文系男子406人、文系女子376人、理系男子331人、理系女子148人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2019年6月1日～5日
サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

1. 6月1日時点の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は71.1%。先月調査(5月1日現在)の51.1%から1カ月で20ポイント上昇し、7割を超える高水準となった。前年同期実績(65.7%)に比べ5.4ポイント高く、内定の前倒しが顕著だ。現行の日程ルール(3月採用広報解禁、6月選考解禁)になった17卒以降、6月の内定率としては最も高い。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは54.6%。前年同期(47.7%)を6.9ポイント上回り、就職先決定のタイミングが早まっていることがわかる。特に理系は6割を超え、終了率の高さが目立つ。

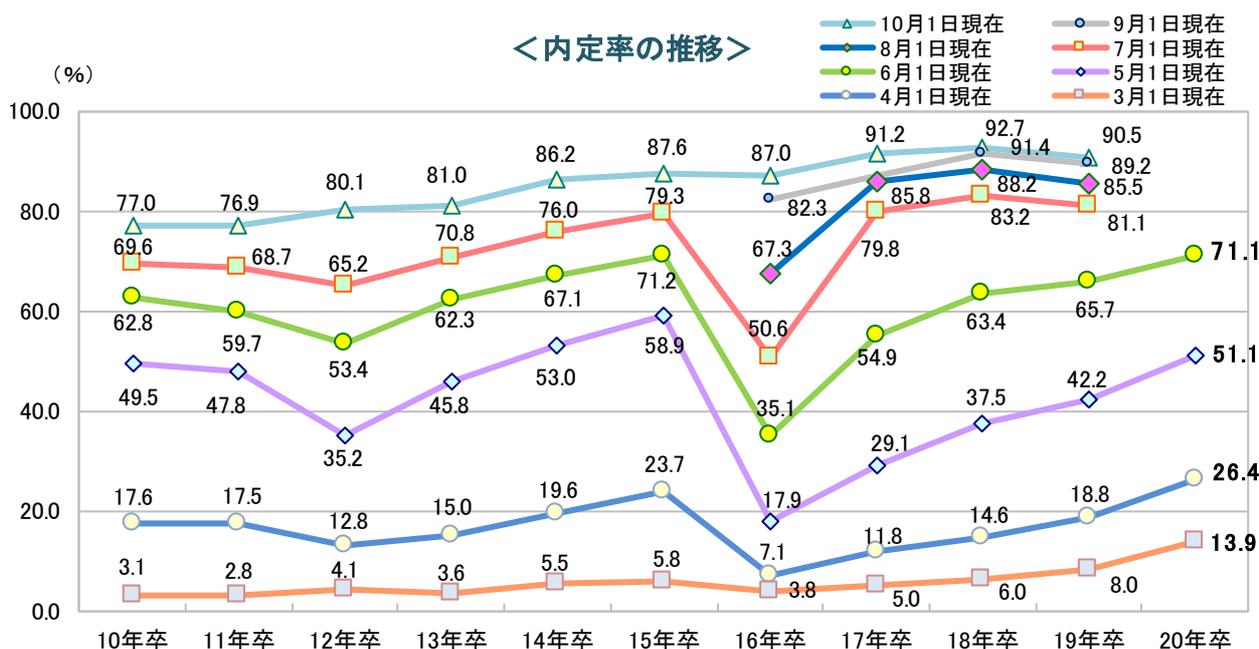
内定取得学生のうち38.3%が、就職活動を継続していると回答した。

<6月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		71.1 (65.7)	64.3 (64.0)	72.6 (61.4)	73.7 (70.3)	79.7 (70.3)
内定なし		28.9 (34.3)	35.7 (36.0)	27.4 (38.6)	26.3 (29.7)	20.3 (29.7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	54.6 (47.7)	47.1 (43.3)	45.4 (38.4)	66.4 (59.1)	67.8 (53.2)
	活動は終了したが複数内定保持	6.4 (4.9)	8.8 (6.0)	5.9 (4.2)	5.3 (4.3)	4.2 (5.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.8)	0.4 (0.5)	0.0 (0.5)	2.0 (1.4)	0.8 (0.9)
	就職活動継続	38.3 (46.5)	43.7 (50.2)	48.7 (56.9)	26.2 (35.1)	27.1 (40.5)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.1 (2.0)	2.2 (2.0)	2.2 (2.1)	2.0 (1.9)	1.9 (2.0)

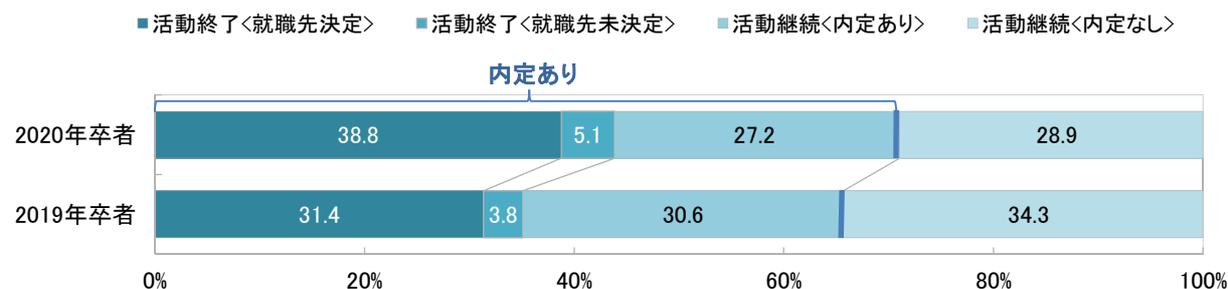


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は38.8%。複数内定を保留しているなど未決定である者(5.1%)を合わせると、終了者は43.9%となる。内定取得者の終了ペースが早まったことで、前年同期(35.2%)より8.7ポイント上昇した。

活動継続者は「内定あり」(27.2%)、「内定なし」(28.9%)を合わせて56.1%。内定の有無に関わらず、多くの就活生にとってこの6月が大きな山場となるだろう。

<活動状況の分布>



2. 内定を得た企業の属性

6月1日現在で内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多く、33.9%と依然内定が集中している。文理男女すべての属性で1位であり、特に理系男子では4割を超えている。

全体の2位は「建設・住宅・不動産」(16.6%)で、3位「電子・電機」(11.5%)、4位「調査・コンサルタント」(10.8%)と続く。

採用意欲が高く、内定出しの早い業界が上位にランクされたが、6月の山場を越えた後の7月調査では順位が変動する可能性がある。

<内定を得た業界(上位10業界)>

※6つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 33.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 27.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 40.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 38.1
2	建設・住宅・不動産 ② 16.6	銀行 17.2	保険 13.2	電子・電機 20.9	建設・住宅・不動産 22.0
3	電子・電機 ④ 11.5	建設・住宅・不動産 17.2	専門店 11.4	建設・住宅・不動産 20.1	医薬品・医療関連・化粧品 21.2
4	調査・コンサルタント ③ 10.8	調査・コンサルタント 16.5	建設・住宅・不動産 10.6	素材・化学 11.5	人材紹介・人材派遣 13.6
5	銀行 9.4	運輸・倉庫 10.7	銀行 10.3	自動車・輸送用機器 11.1	素材・化学 11.0
6	人材紹介・人材派遣 ⑦ 8.1	商社(専門) 10.7	情報・インターネットサービス 10.3	機械・プラントエンジニアリング 9.8	その他サービス 10.2
7	保険 7.4	保険 8.8	マスコミ 9.5	人材紹介・人材派遣 9.8	水産・食品 10.2
8	情報・インターネットサービス ⑥ 7.3	情報・インターネットサービス 7.3	調査・コンサルタント 9.5	調査・コンサルタント 8.6	精密機器・医療用機器 7.6
9	運輸・倉庫 ⑤ 6.9	電子・電機 7.3	電子・電機 9.2	運輸・倉庫 5.7	情報・インターネットサービス 6.8
10	素材・化学 6.7	自動車・輸送用機器 6.9	商社(専門) 8.8	エネルギー 5.3	電子・電機 6.8
		人材紹介・人材派遣 6.9			
		その他サービス 6.9			

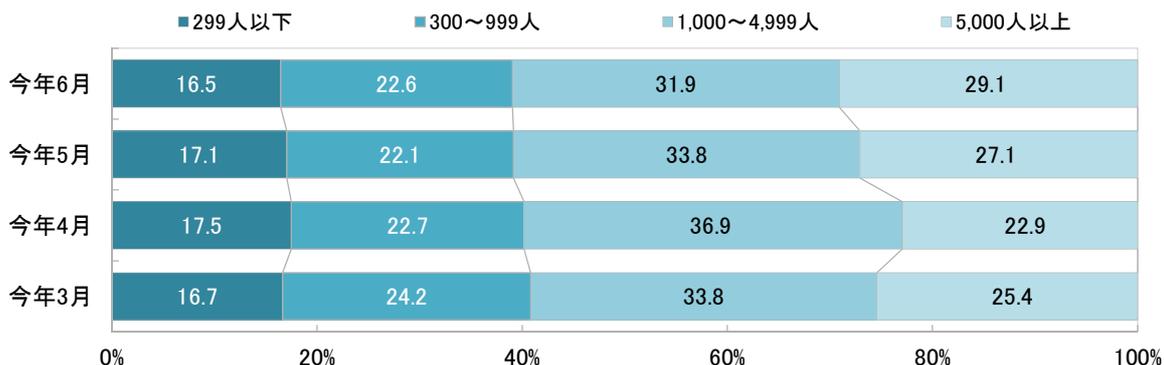
※○の中の数字は前年調査の順位

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

内定を得た企業の従業員規模について、この4カ月の推移を見てみる。例年、3月など早い時期は規模の小さい企業からの内定が多かったが、今年は3月調査から一貫して従業員1,000人以上の大手企業の内定が約6割を占めてきた。企業規模による内定出しの時期に差がなくなってきたことが読み取れる。

6月調査では「5,000人以上」の占める割合がやや増加したが、学生から報告された社名を見ると、経団連加盟企業を中心とした大企業が多く挙がっており、こうした企業が選考解禁直後に内定を出したようだ。

＜内定を得た企業の従業員規模＞



※複数の企業から内定を得た学生がいるため、100%換算し、算出した

3. エントリー社数とセミナー参加社数

6月1日時点での就職活動量について確認してみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は28.5社で、前年同期(30.0社)を1.5社下回る。一昨年から昨年にかけての減少幅に比べれば下げ止まった感はあるものの、3月調査(23.1社)からの伸びが5.4社とかなり鈍い。早い段階で企業を絞り込み、新たな企業へと関心を広げることが少ないまま就職活動を進める学生が多かったことが推測できる。

企業セミナーへの参加社数も前年実績を割り込んでおり、平均11.1社。

＜エントリー社数とセミナー参加社数＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー社数	28.5	30.0	30.9	32.2	21.6	27.1
企業セミナー参加社数	11.1	13.0	12.4	13.0	7.8	9.4

＜エントリー社数の推移＞



＜企業セミナー参加社数の推移＞



4. 選考試験の受験状況

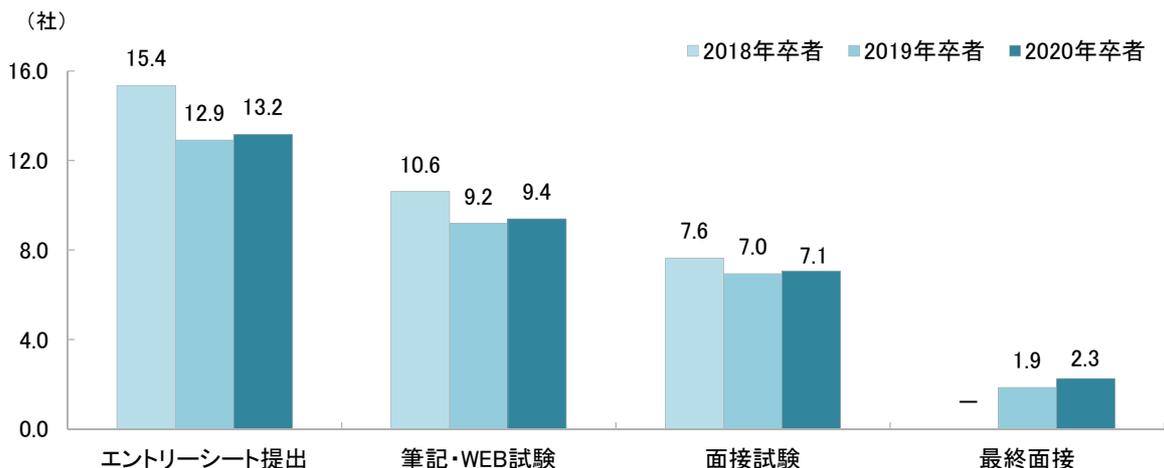
選考試験についても社数を確認してみよう。

エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 13.2 社。前年同期 (12.9 社) をやや上回る。筆記試験、面接試験の社数も同様に、前年同期をやや上回っている。エントリーやセミナー参加社数が減っているのとは対照的だ。興味のある企業を厳選してエントリーしたことで、選考に進む割合が高まったのだろう。ただし、4月調査時点で ES 提出社数は前年同期との差が大きかったが、月を追うごとに差は縮まっており、提出のタイミングが単に前倒しになっていた可能性もある。

筆記試験は平均 9.4 社で、面接試験は同 7.1 社。なお、グラフの「最終面接」の社数 (2.3 社) は、面接試験を受けた者を分母に算出したものであり、面接試験 7.1 社を受け、最終面接に進んだのが 2.3 社という計算になる。前年に比べ最終面接まで進める確率は上昇している。

＜選考試験の受験状況＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	13.2	12.9	14.4	14.3	9.9	13.8
筆記・WEB試験	9.4	9.2	10.7	9.9	7.1	9.3
面接試験	7.1	7.0	7.7	7.8	5.8	6.2
最終面接	2.3	1.9	2.3	2.3	2.3	2.0



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出

＜ES提出社数の推移＞



＜面接試験受験社数の推移＞

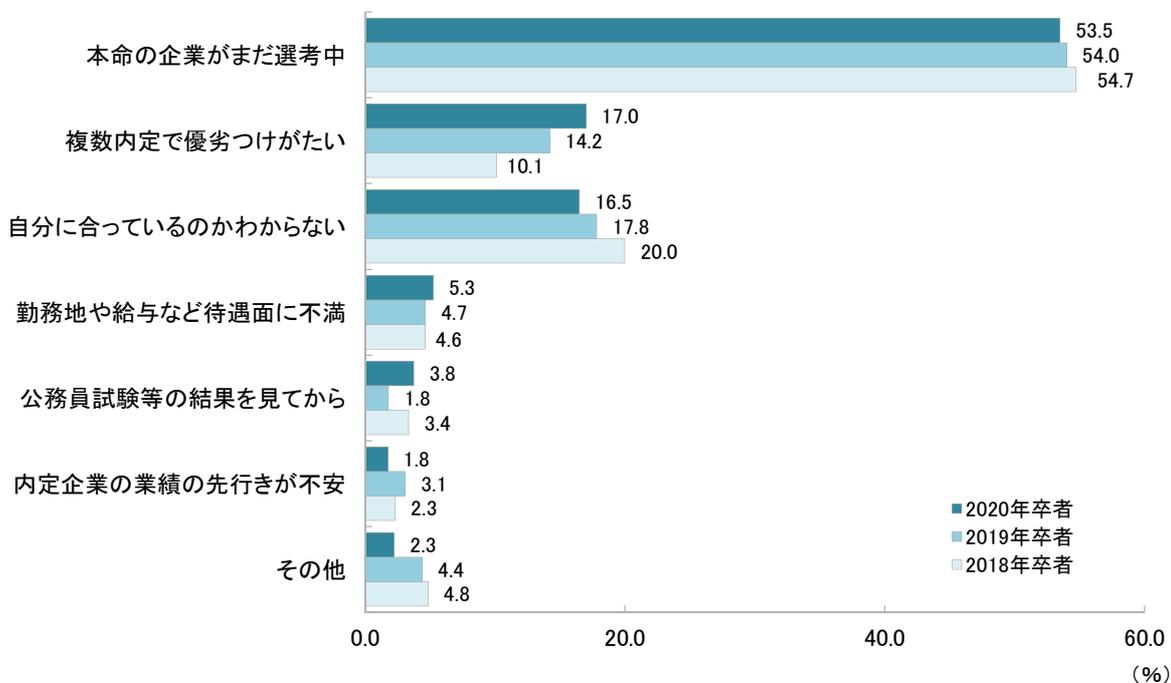


5. 就職活動継続学生の動向

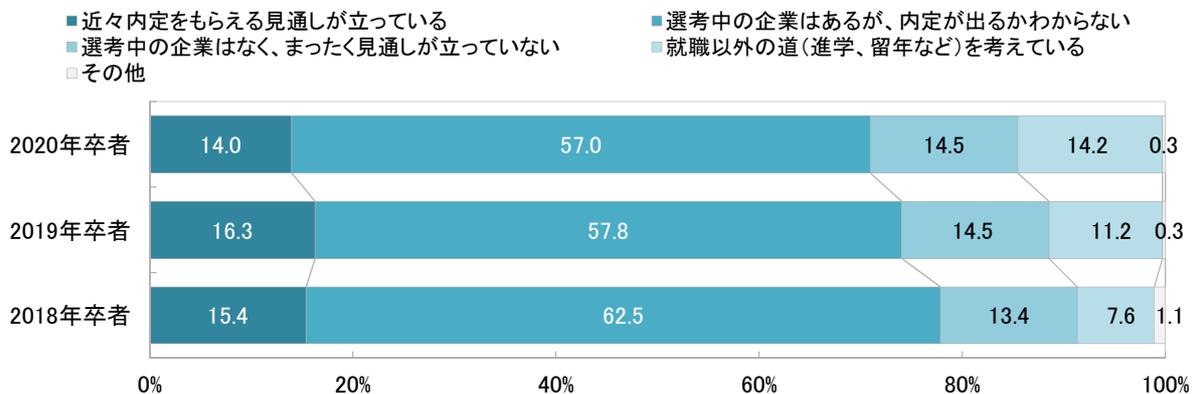
内定取得学生のうち就職先を決めていない者（モニター全体の 27.2%）にその理由を 1 つだけ選んでもらった。圧倒的に多いのが「本命の企業がまだ選考中」で半数を超えている（53.5%）。多くが本命企業の結果次第という状況だ。また、「複数内定で優劣つけがたい」という回答が年々増加し、2 位になった。志望度の高い複数の企業からの内定を手にする学生がそれだけ増えているということだろう。

一方、未内定の学生（モニター全体の 28.9%）には内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 1 割強（14.0%）にとどまり、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」（57.0%）。ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（14.5%）を足し合わせると 71.5% になり、未内定者の 7 割強が先の見えない状況にあるようだ。「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」という回答が 14.2% あり、選考解禁直後にもかかわらず、早くも来春の就職を見送ろうと考えている学生が一定数いることがわかる。

＜内定保持者が継続する理由＞



＜未内定者が内定を得る見通し＞



内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 56.1%）の、現在選考中の企業数は平均 3.0 社。これから受験予定の企業数（2.1 社）をあわせると、いわゆる持ち駒企業は 5.1 社。

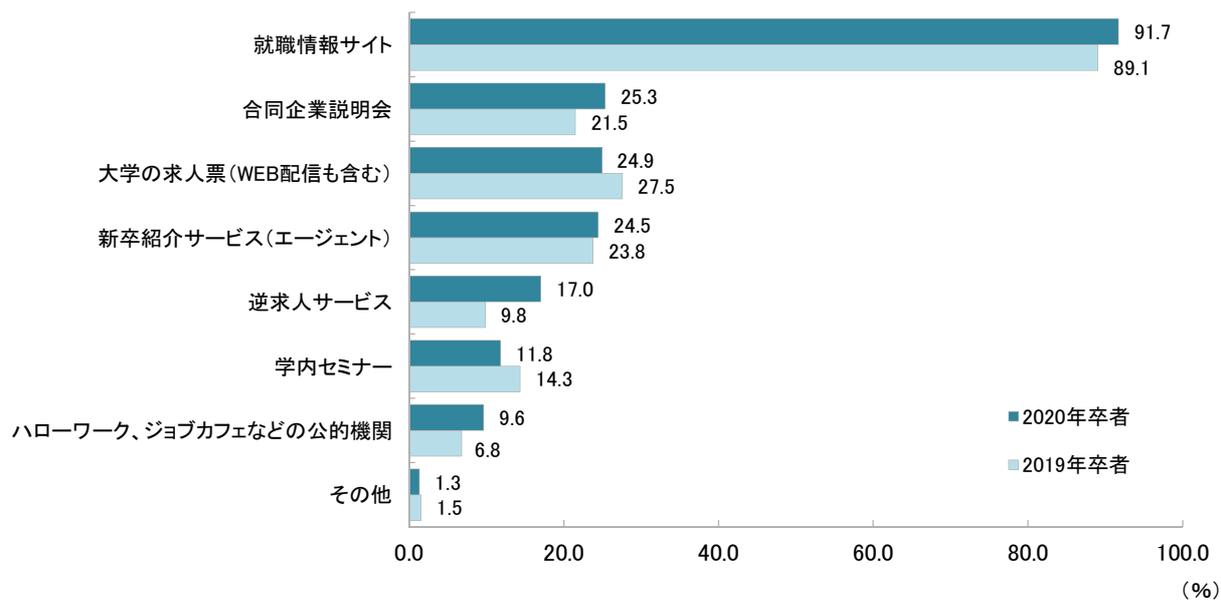
今後のエントリー予定社数は内定の有無で差が大きく、「内定あり」の学生は 0.9 社だが、「内定なし」の学生はその約 4 倍の 3.5 社。積極的に持ち駒を増やす必要性を痛感している学生が多いのだろう。

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が 9 割を超え圧倒的に高い（91.7%）。企業探しのメインツールとして長く利用されていることがわかる。

<持ち駒企業数>

	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	3.0	2.8	3.2	3.6	3.0	2.0	2.9
これから受験予定の企業数	2.1	1.7	2.5	2.4	2.2	1.6	1.6
今後のエントリー予定社数	2.3	0.9	3.5	3.1	1.9	1.6	1.6
今後の企業セミナー参加予定社数	1.4	0.8	2.1	1.8	1.4	1.1	1.1

<新たな企業を探す手段>



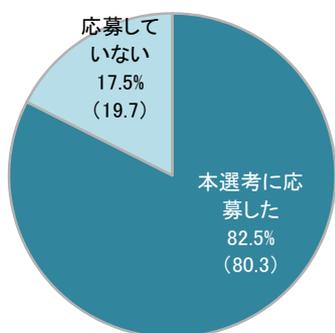
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト	91.7	92.9	91.0	94.3	83.3
合同企業説明会	25.3	25.5	26.9	25.7	16.7
大学の求人票 (WEB配信も含む)	24.9	19.4	28.2	28.6	33.3
新卒紹介サービス (エージェント)	24.5	21.4	26.9	20.0	38.9
逆求人サービス	17.0	14.3	19.2	17.1	22.2
学内セミナー	11.8	12.2	9.0	14.3	16.7
ハローワーク、ジョブカフェなどの公的機関	9.6	8.2	12.8	5.7	11.1
その他	1.3	2.0	1.3	0.0	0.0

6. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

インターンシップ参加経験のある学生に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。「本選考に応募した」との回答は、8割超(82.5%)で、前年調査(80.3%)を上回った。本選考応募社数の平均は4.6社。前年同期(3.7社)より約1社増加した。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は55.4%と半数超。前年調査より5.3ポイント増加しており、インターンシップ参加企業から内定を得る学生が増えていることがわかる。

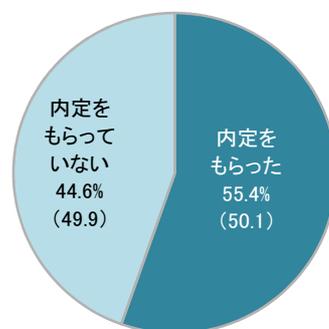
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が最も多く約6割(59.7%)。続く「インターンシップ参加学生の優先ルートがあった」(48.4%)、「早期選考だった」(44.0%)は、いずれも前年よりポイントが増加。企業が、インターン参加学生を本選考につなげる動きを強化していることが読み取れる。

<インターン参加企業の本選考への応募>



* インターンシップ参加経験者が回答

<インターン参加企業からの内定>

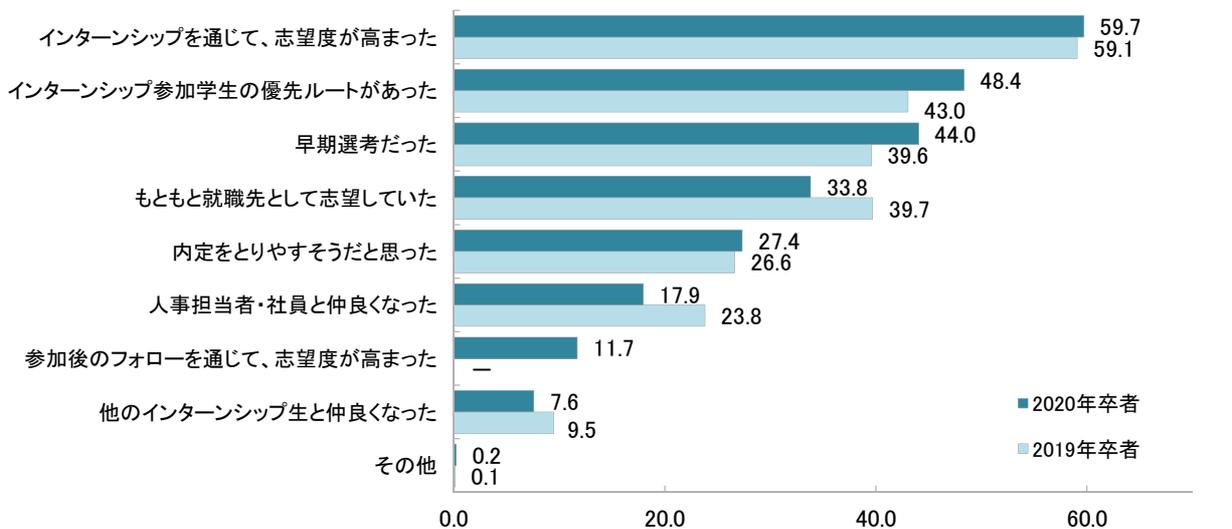


* インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

	インターン参加社数	プレエントリー社数	本選考応募社数	内定社数
2020年卒者	7.8社	5.8社	4.6社	1.7社
2019年卒者	6.5社	4.8社	3.7社	1.5社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

<本選考に応募した理由>



※「参加後のフォローを通じて、志望度が高まった」は前年調査なし

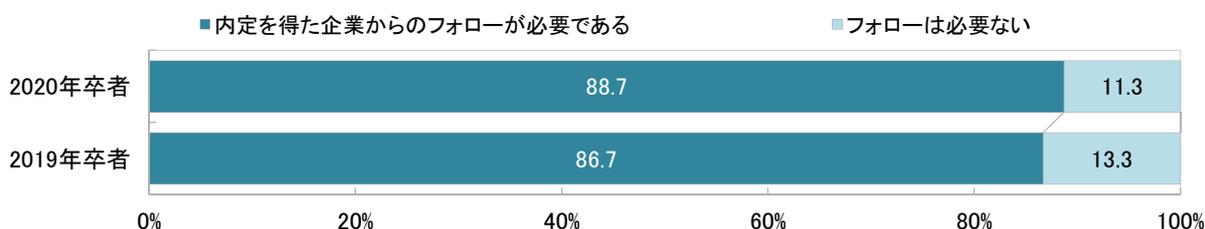
(%)

7. 内定企業への意思決定に必要なフォロー

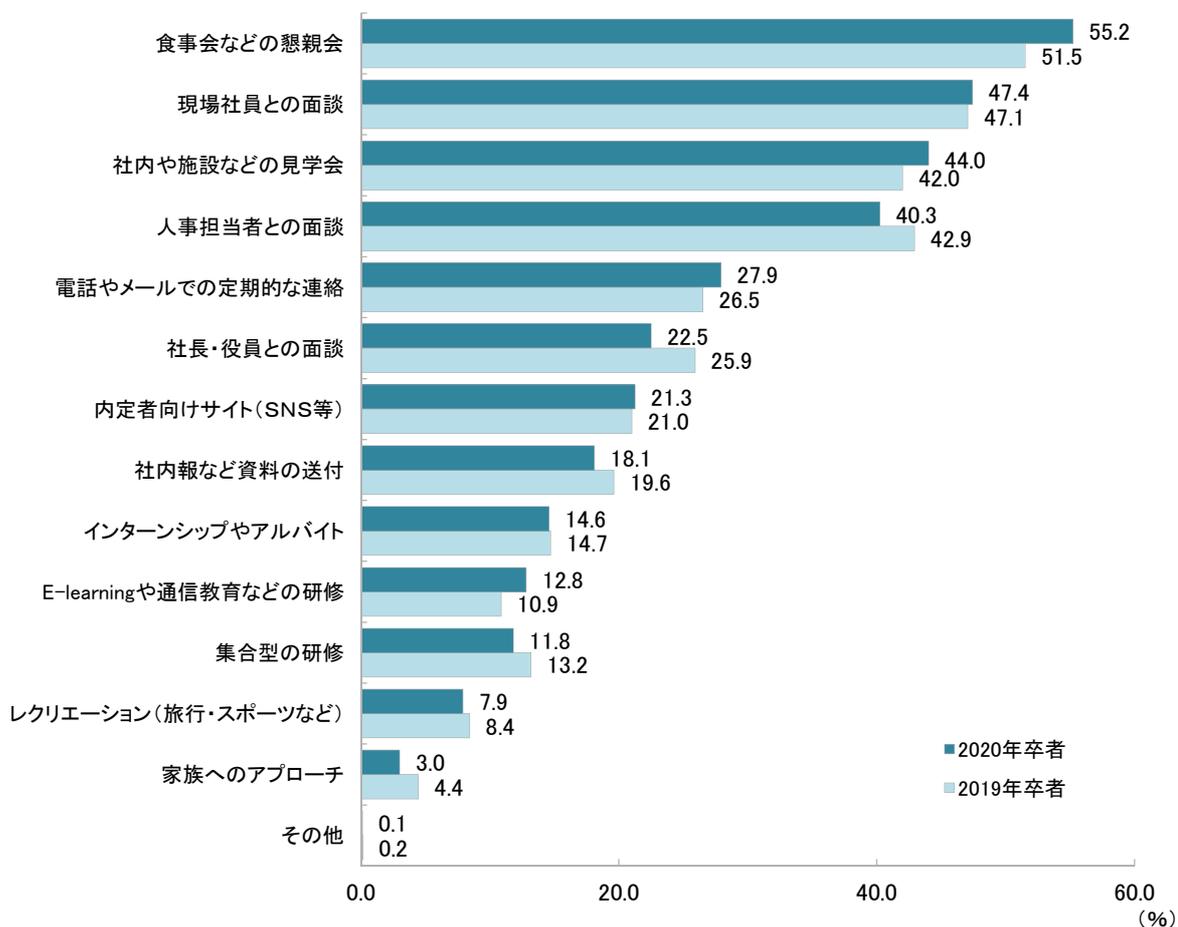
内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについて尋ねたところ、「フォローは必要ない」との回答は 11.3%にとどまり、就職先決定のために何かしらのフォローを必要としている学生が大半を占めた。全体的に前年調査よりポイントが増加しており、スピード選考や複数内定獲得により、内定後に改めて企業を知るための機会や情報を必要とする学生が増えていることがうかがえる。

具体的な内容として最も多いのは「食事会などの懇親会」で過半数 (55.2%)。「現場社員との面談」(47.4%)、「社内や施設などの見学会」(44.0%)、「人事担当者との面談」(40.3%) までが 4 割を超える。分散傾向が見られ、学生によって就職決定に必要なとするフォローは一様ではないことがわかる。

<意思決定のためのフォローの必要性>



<内定を得た企業への意思決定に必要なと思うフォロー>



■志望度が上がった、嬉しかった内定後フォロー

- 内定をもらった日に、インターンでお世話になった社員の方がお祝い会を開いてくれたこと。 <文系男子>
- 交通費や宿泊費負担で懇親会を開催してくれ、志望度が上がった。座談会や飲み会でフランクに話げできた。 <理系男子>
- 納得いくまで質問をしてよいという機会をいただき、自分が目指すキャリアを歩んだ方々や、興味のある分野の方々と話し合いをすることができた。 <理系女子>
- 入社した後の昇進についてや、給料、福利厚生などの具体的な説明を聞く場を設けてくれたこと。 <文系女子>
- 他社と悩んで決めていいと言ってくれたため、懐の広さに感動し志望度が上がった。 <文系男子>
- 内定通知の書類に、面談や選考に携わった方の手書きメッセージが入っていたこと。 <理系男子>
- 「上司に、あなたを絶対に引っ張って来いって言われている」と言われた時は嬉しかった。求められている気がした。 <文系男子>
- LINE やメールなどで、気になる事項がないかというフォロー。 <文系女子>
- その企業が開催している顧客向けセミナーへの招待。その企業でどのような取り組みを行っているのかや社員の雰囲気をつかめる機会となった。 <文系男子>
- 母から反対されているとお伝えしたら、会社のパンフレットなどを家に送ってくれたこと。 <文系女子>

■志望度が下がった内定後フォロー

- 6月1日に内定者イベントあり、休日にもかかわらず、朝の10時から20時まで拘束された。 <理系男子>
- 毎月最低1回ほど懇親会のようなものが開催され、その都度メールや電話で連絡が来て、半ば強制的に参加させられた。その企業からの内々定は辞退した。 <文系男子>
- しつこく電話が来たり、何回も会社に呼び出されて交通費も出ない企業は、志望度が下がっていった。 <理系女子>
- 人事の方との面談だけで、現場の社員さんとお話をする機会をもらえなかったこと。 <文系女子>
- 選考が貸会議室でしか行われなかったため、会社訪問がしたいと伝えたが、叶わなかった。 <文系女子>
- 内定辞退させないために、選考状況・就活を続けているかを電話で何度も聞いてきたこと。 <理系男子>
- 内々定の承諾期限を、当初通知されていた日程より1カ月早められた。 <文系女子>
- 文系学部生に対して、内定後に教授推薦書の提出を求めてくる企業があった。明確なオウハラ。 <文系男子>
- まったく連絡がないので、必要とされていないのではないかと感じてしまう。 <文系男子>

■就職活動の進捗度合 (苦戦している学生の声)

- 第一志望業界でエントリーした企業の8割ほどがESで落とされてしまった。 <文系男子>
- 推薦を上手く使えなかったため。 <理系男子>
- 順調に進んでいると思っていたが、最終面接3連敗で一気に窮地に立たされた。 <文系男子>
- ほぼすべての企業に落ちてしまい、残っている企業は超人気大手企業のみだから不安。 <文系女子>
- 最終面接までは進んでも内定をもらうことができなかった。ポテンシャル採用とはいえ、技術的な内容を重視していると思われ、研究経験の乏しい学部生は苦戦を強いられる印象を受けた。 <理系男子>
- 内々定は得ているものの、自分にとって志望度が高い企業からは内定を得られていないため。 <文系男子>
- 志望企業の採用人数が少なく、まったく選考を通過できない。 <理系女子>
- 雰囲気と仕事内容が自分にマッチする企業になかなかあえない。 <文系女子>
- 面接から先に進めない。受ける企業を絞り過ぎていたが、今そのデメリットを痛感している。 <文系男子>
- GWで中だるみしてしまったことで、準備不足や気の緩みがあったように感じる。 <文系女子>